

フロンティア漁場整備生物環境調査

(日本海西部地区漁場整備生物環境調査委託事業)

道根 淳・沖野 晃・安木 茂

1. 研究目的

平成 19 年の漁港漁場整備法の改正により、フロンティア漁場整備事業（国直轄）が創設され、排他的経済水域において対象資源の回復を促進するための施設整備を資源回復措置と併せて実施することとなった。日本海西部海域においては、平成 26 年にかけてズワイガニ、アカガレイの産卵・成育場を確保するため、本県沖合から兵庫県沖合にかけて保護育成礁を設置する計画である。そこで、本事業による保護育成礁設置前後の生物・環境調査を実施し、魚礁設置後の効果を検証する。

なお、本調査は（財）漁港漁場漁村技術研究所からの受託事業であり、本県ならびに鳥取県、兵庫県の関係機関で調査を実施した。

2. 研究方法

(1) トロール調査

試験船「島根丸」により、2011 年 7 月 6～7 日に赤碕沖海域、9 月 13 日～16 日にかけて隠岐北方海域、9 月 8～9 日および 29 日に浜田沖海域のトロール網調査を実施した。各調査海域の調査点は、赤碕沖が 3 調査点、隠岐北方が 6 調査点、浜田沖が 3 調査点の計 12 調査点である。

漁獲物は船上で種類別に分類し、ズワイガニは雌雄別に分け、甲幅を測定するとともに、雌では成熟度の判定、雄では缺脚幅を測定した。またアカガレイは、雌雄別に分け、体長、重量を測定した。なお、大量に漁獲された場合は一部を抽出し、測定を行った。そのほか、主要漁獲対象種は尾数を計数した後、体長、重量を測定した。

3. 研究結果

関係機関が得た調査結果をもとに、（財）漁港漁場漁村技術研究所が報告書を作成し、水産

庁漁場整備課へ報告を行った。本調査結果は、平成 23 年度日本海西部地区漁場整備生物環境調査業務報告書（（財）漁港漁場漁村技術研究所 平成 23 年 12 月発行）として報告されている。

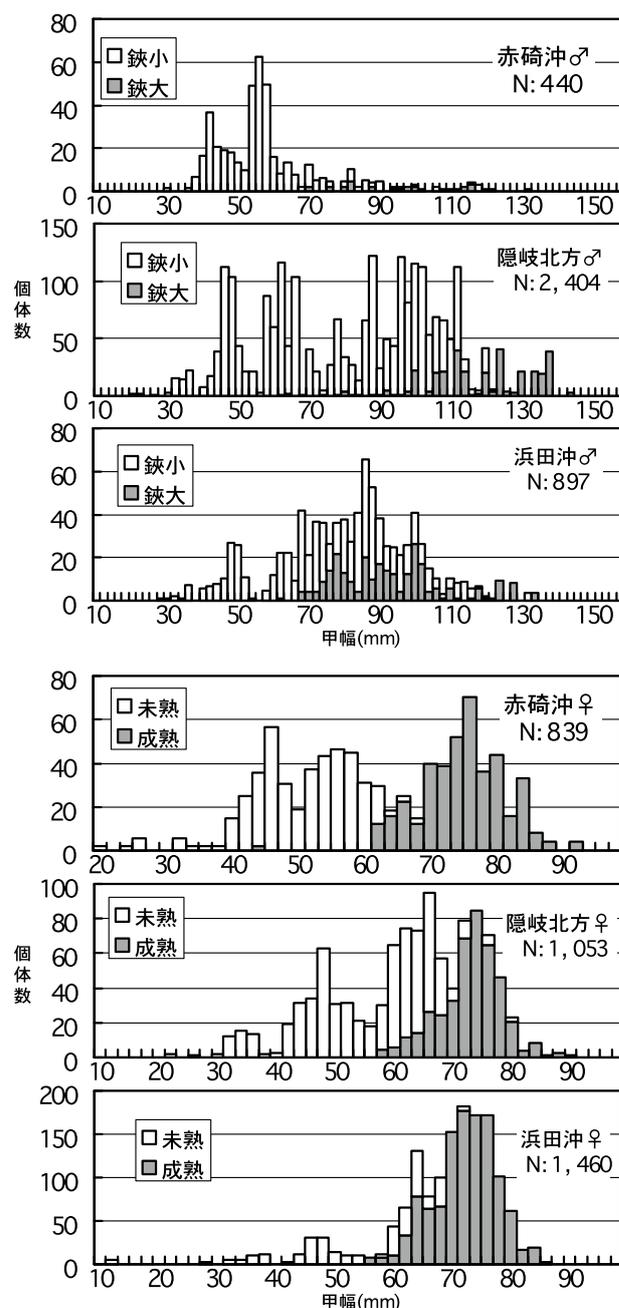


図1 各海域で漁獲されたズワイガニの甲幅組成 (上段：雄、下段：雌)